

乳製品の価格上昇と低レベルの在庫量が景況感を改善

欧州委員会「牛乳乳製品市場観測サイト」2021年3月会合報告より

欧州委員会が開設している「牛乳乳製品市場観測サイト(Milk Market Observatory = MMO)」の経済委員会3月会合が、ビデオ会議方式で開かれた。同会合の報告書(*1)では、EU加盟国での直近1月の生乳生産量は前年同月比0.9%減だったものの、乳製品価格の上昇基調と低レベルの在庫量が市場の地合いを改善していることなどを伝えている。また同報告書では、世界的な乳製品の需要は2021年も引き続き堅調と予想しているが、新型コロナに対するワクチン接種の見通し、米国の追加関税の一時停止、英国の新たな輸入管理の段階的導入などに期待感がある一方で、一部の地域またはEU加盟国での都市封鎖によって、思ったような回復が遅れる可能性があるため、今後年内に外食産業の再開による好影響を予測することは難しいことを指摘している。以下に報告書の要約を紹介する。(読みやすさを考慮し、Jミルクで小見出しなどを補った)

MMO 経済委員会の第37回会合は、以下のミルクサプライチェーンの専門家の参加を得て、ビデオ会議で2021年3月23日に開催された。

- COPA-COGECA (欧州農業組織委員会・農業協同組合委員会)
- CEJA (欧州青年農業者協議会)
- EMB (欧州酪農委員会)
- ECVC (ピア・カンパシーナの欧州組織)(*2)
- EDA (欧州乳業協会)
- Eucolait (欧州乳製品輸出入・販売業者連合)
- Eurocommerce (欧州商工会)

会合でのプレゼンテーションと情報交換では、次の点が強調された。

EUの2021年1月の生乳生産量は前年同月比0.9%減

EUの牛乳集乳量は、2021年1月に前年同月比で0.9%減少した(10万4000トン減)。EU加盟国のうち11カ国は1%を超える生産量の増加を報告した一方、ドイツ、フランス、オラン

ダ、スペインなどの主要な生乳生産国を含む9カ国は生産量の減少を記録した。この2021年1月の集乳量の減少は、次のようにほとんどの乳製品の生産量減少につながっている: 脱脂粉乳(5.6%減)、バター(3.9%減)、発酵乳(3.7%減)、チーズ(1%減)、ただし全粉乳(5%増)と飲用乳(0.1%増)は除く。

2021年1月のEUの平均庭先乳価は34.95 c/kgと報告された。これは、1年前より0.9%低いが、過去5年間の平均よりも2.9%高い。2021年2月のEU加盟国の推定は、34.7 c/kgとなり、わずかではあるが更に低下を示している。

EUでは乳製品価格の上昇基調と低レベルの在庫量が市場の地合いを改善

EUの平均的な乳製品価格、特に脱脂粉乳、全粉乳、バター、ホエイパウダーの価格は、年初から継続的に上昇してきた。EUのホエイパウダー価格は2017年7月以来の最高水準に達している。バター価格は2021年年初から16%上昇した。チーズ価格は、2020年の水準よりわずかに上昇(エメンタールとチェダー)または低下(エダムとゴーダ)で変動している。

すべての乳製品で価格はこの 5 年間の平均を上回っている。

供給(生産量+輸入量)から需要(国内消費量+輸出量)を差し引いた残余乳製品に基づく EU 在庫レベルの評価は、民間の脱脂粉乳在庫が 2020 年末にさらに減少して 10 万トン未満の低レベルになったことを示している。2020 年 12 月末のバター在庫は、一年のその時期としては通常のレベル(15 万トン)だった。チーズ在庫は、国内および世界の需要の増加により、過去数年の同期比では低レベル(32 万 5000 トン)だった。全体的な低在庫量と健全な需要が相まって、市場の地合いを改善している。

2020 年の世界の主要輸出国の生乳生産量は 1.9%増、国際貿易は 2.5%増

全世界の生乳供給量は、2020 年は好調であり、予想を上回った。主要な輸出国/地域(EU27 カ国、英国、米国、ニュージーランド、オーストラリア、アルゼンチン、ウルグアイ)の生乳生産量が 1.9%増加した。ニュージーランドの累積集乳量の伸びは、2020 年 11 月以降かなり安定している(0.8%増)。米国の集乳量は 2021 年 1 月も拡大を続け、乳牛頭数は増加した。アルゼンチンの生乳供給量は、コスト上昇による収益性低下にも関わらず、2021 年 1 月も増加を続けた(7.7%増)。

国際貿易は 2020 年第 4 四半期に減速したが、Covid-19 のパンデミック、米国の追加関税および EU と英国間の貿易量低下にも関わらず、2020 年には 2.5%増加した。英国、中国、アルジェリアが 2020 年の EU 輸出先トップ 3(生乳換算)であり、日本とインドネシアがそれに続いた。米国と英国の総輸入量は、2019 年と比較して 2020 年は減少した。対照的に中国は国際乳製品貿易でその重みを増し、世界の

総輸入量の 21%を占めている。

外食産業の年内回復に期待するも予測は難しく、現在は小売りが下支え

2021 年は世界的な需要が引き続き堅調であると予想され、EU の外食産業の回復と、依然として比較的多めの取引高により、乳製品価格を下支えするはずである。前提付きの予測に基づく、EU の生乳供給量は春の天候とコストの動向をさらに監視することを条件として、1%まで増加すると見込まれる。

EU の生乳の約 3.6%は有機として生産されており、有機の乳牛群は EU の乳牛群全体の 4.4%を占めている。最大のシェアは有機飲用乳に向けられているが、有機バターは 2016～2019 年の間に最も増加した。有機乳製品の小売売上高は、飲用乳とヨーグルトが優位を占めている。この 10 年間(2009～2019 年)に、有機ヨーグルトと有機チーズの小売売上高は 2 倍になったが、従来製品と比較して、その市場シェアは依然として比較的小さいままである(1.5%と 6%)。

Covid-19 関連の都市封鎖により、家庭料理とオンライン販売が増加した。家計は依然として比較的悲観的であり、消費よりも貯蓄を好む傾向がある。それにも関わらず、デザートとフレッシュ乳を除いて、ほとんどの乳製品カテゴリーの小売売上高は昨年増加した。一部の EU 加盟国では、有機乳製品の売上高は 2020 年も引き続き増加したが、そのペースは過去数年よりも遅い。

乳製品価格の上昇、Covid-19 に対するワクチン接種の見通し、米国の追加関税の一時停止、および完全な輸入手続きの段階的導入を(動物由来の製品については 10 月 1 日まで(*3))延期するという英国の決定に鑑みて、市場の地合いは改善した。一方で、一部

の地域または EU 加盟国で発表された部分的または完全な都市封鎖は、期待された回復を遅らせる可能性がある。新型コロナの世界的な大流行があるにも関わらず(政府の景気刺激策による GDP 成長見通しの改善(*4)、今後の旅行や外食の制限解除の可能性から、市場は前向きな感情を持っており)、市場のバランスは取れているようだ。しかしながら今後年内に外食産業の再開による市場への影響を予測することは不確定要素も多く困難である。

参考資料:

- 1) https://ec.europa.eu/info/sites/info/files/food-farming-fisheries/farming/documents/mmo-report-2021-03-23_en.pdf MMO economic board meeting report – 23 March 2021. European Commission.
- 2) <https://www.eurovia.org/> 国際的な農民組織であるピア・カンペシーナの欧州組織であり、欧州 21 カ国の 31 団体が所属。
- 3) <https://www.jetro.go.jp/biznews/2021/03/aa39bd14bfefa5fe.html>
- 4) <https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2021/2ece4a23b9fbbfae.html>

(資料閲覧:2021年3月30日)

(Jミルク 国際グループ 新光一郎)